

学校名	静岡県立焼津水産高等学校
-----	--------------

## 平成 28 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

### I 委託事業の内容

#### 1. 研究開発課題名

漁業・水産業及び、水産物流通の高度化・グローバル化に対応した、我が国の水産業界をリードする専門的職業人の育成

～育成プログラムを通じた水産高校の先進的教育課程の研究～

#### 2. 研究の目的

漁業・水産業界において第一線で活躍できる職業人を育成するため、学校教育から、社会・職業への円滑な移行に必要な力のうち、特に、「基礎的・汎用的能力」と「専門的な知識・技能」の育成を目指す。

また、全ての科の生徒に、消費者ニーズや社会の動向を客観的に把握する能力を身に付けさせるとともに、漁獲、加工、流通、消費までを一つの産業として捉え、これらをマネジメントする能力を備えた次代の漁業・水産業においても活躍できる人材の育成を図る。併せて、その育成プログラムを通して水産高校における先進的な教育課程の研究を行う。

#### 3. 実施期間

契約日から平成 29 年 3 月 15 日まで

#### 4. 当該年度における実施計画

##### (1) 研究の内容・方法

##### ア. 品質管理に関する研修

福島鯉株式会社において、ハラル認証を受けたかつお節製造に関する内容及び、和歌山県串本町大島漁業協同組合において、本マグロ養殖に関する内容を、全学科の生徒が学ぶ。なお、実施時期は 8 月で、2 日間程度を想定している。

##### イ. 商品開発シミュレーション研修

販売促進研究所の協力で、企業経営者向け商品開発シミュレーションを全学科の生徒に体験させる。なお、実施時期は 6 月～10 月で、5 回実施を想定している。

##### ウ. 生徒の海外インターンシップ

マルハニチロ（株）の現地法人である N&N FOODS 社（バンコク）において、生産現場、品質管理現場、管理業務などのインターンシップ（職場体験）を実施する。なお、実施時期は 8 月で、4 日間程度を想定している。

##### エ. 大手水産会社における就業研修

マルハニチロ（株）及び、日本水産株式会社、大洋エーアンドエフ（株）と連携し、世界規模で活躍する企業人から、事業の意義や仕組みなどを学ぶ。なお、実施時期は8月で、2日間程度を想定している。

オ. 漁場予測と安定的で持続可能な漁船漁業経営

静岡県水産技術研究所及び、（社）漁業情報サービスセンターと連携し、海洋ナビゲータ「エビスくん」の漁場予測を駿河湾で実測した水温、クロロフィル等の実測値と比較し補正の必要性を検証し、より精度の高い漁場予測を行う。なお、実施時期は4～11月を想定している。

カ. 駿河湾における「サガラメ」の定植を目指した研究

静岡県水産技術研究所と連携し、地先海域におけるサガラメの定植へ向けた共同研究を行う。なお、実施時期は4～11月を想定している。

キ. 自然冷媒（空気）を活用した冷凍装置の実証研究

（株）前川製作所と連携し、実習船に実験機を搭載して機械の振動と性能実験を行う。なお、実施時期は4～11月を想定している。

ク. 船舶の推進効率を追求したスーパーエコシップへの挑戦

横浜国立大学と連携し、CADを活用した高い効率のヒレ推進を設計、ヤンマーディーゼル株式会社の協力で研究する。なお、実施時期は4～11月を想定している。

ケ. 未利用資源の水産加工残滓を活用した発酵食品の研究開発

鈴与総合研究所と連携し、カツオやサバなどの加工残滓を原料に付加価値及び、汎用性の高い旨味調味料を製造する。なお、実施時期は4～11月を想定している。

コ. ウナギの資源保護と増殖技術研究

ウナギの「下り」についてメカニズムを解明し、親ウナギを生産して放流する。なお、実施時期は4～11月を想定している。

サ. 魚病検査技術としての組織切片作製法と病理組織学的検査

東海大学海洋学部及び静岡県水産技術研究所の協力で、魚病に関する先端の検査技術を学ぶ。なお、実施時期は8月を想定している。

シ. 起業家精神育成を目指した企業経営の実践研究

金融機関の協力で、模擬会社の経営事例や、企業経営の手法を実践的に学ぶ。なお、実施時期は6～10月を想定している。

**（2）新しい水産流通過程、グローバル化に対応した教育課程研究**

専門的職業人に必要とされる知識・技術及び技能を明確にし、専門教科に加えて共通教科も含めた今後の教育課程編成に資する教育課程モデルを研究する。

**（3）研究成果の情報発信**

ア. 生徒が行うこと

日本魚類学会や日本水産学会等で研究成果を発表する。

イ. 教職員が行うこと

①研究の取組や成果をメディアへ情報提供し、地域に幅広く発信する。

②研究の取組や成果を、全国高等学校水産教育研究会等で研究発表する。

## 5. 実施体制

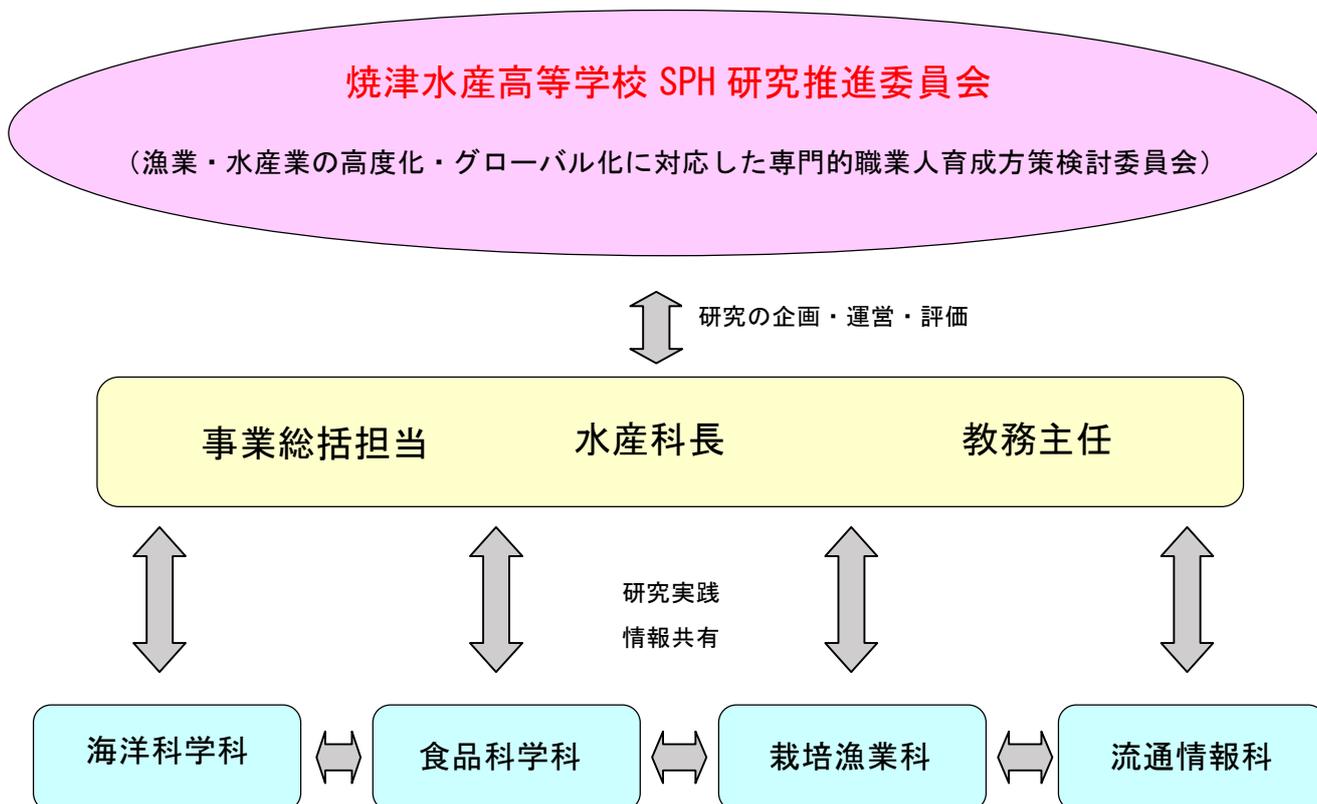
### (1) 研究担当者

氏名	職名	役割分担・担当教科
古木 正彦	校長	研究推進委員長
永田 貴史	副校長	研究推進副委員長
山田 陽子	教頭	研究推進副委員長
萩原 義久	事務長	研究推進副委員長
初山 誉人	教諭	事業総括・水産科統括担当 ・ 水産（海洋科学科）
西澤 美彦	教諭	教育課程編成モデル ・ 水産（食品科学科）
長澤 実弘	教諭	海洋科学科統括 ・ 水産（海洋科学科）
小俣 佳己	教諭	食品科学科統括 ・ 水産（食品科学科）
前田 玄	教諭	栽培漁業科統括 ・ 水産（栽培漁業学科）
北山 剛史	教諭	流通情報科統括 ・ 水産（流通情報科）
吉川 佳名子	教諭	研究推進委員・英語
白井 宏樹	教諭	研究推進委員・地歴公民
武末 晃和	教諭	研究推進委員・理科

### (2) 研究推進委員会

「(1) 研究担当者」に同じ。

### (3) 校内における体制図



## 6. 研究内容別実施時期

研究内容	実施時期											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
品質管理に関する研修					○							
商品開発シミュレーション研修			○	○		○	○					
生徒の海外インターンシップ					○							
大手水産会社における就業研修					○							
漁場予測と安定的で持続可能な漁船漁業経営	○	○	○	○	○	○	○	○				
駿河湾における「サガラメ」の定植を目指した研究	○	○	○	○	○	○	○	○				
自然冷媒（空気）を活用した冷凍装置の実証研究	○	○	○	○	○	○	○	○				
船舶の推進効率を追求したスーパーエコシップへの挑戦	○	○	○	○	○	○	○	○				
未利用資源の水産加工残滓を活用した発酵食品の研究開発	○	○	○	○	○	○	○	○				
ウナギの資源保護と増殖技術研究	○	○	○	○	○	○	○	○				
魚病検査技術としての組織切片作製法と病理組織学的検査					○							
起業家精神育成を目指した企業経営の実践研究			○	○		○	○					
新しい水産流通過程、グローバル化に対応した教育課程研究	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
研究成果の情報発信	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※ 実施時期は、事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目

8. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

( ) 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有・無

※有の場合、別紙3に詳細を記載のこと。

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙2に記載